



開催報告

次世代人材育成事業
国際科学技術コンテスト支援事業

国際科学オリンピック初のリモート開催 主催者の思いと金銀メダルを報告

毎年夏に計31人の高校生らが派遣されている国際科学オリンピック。今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、7大会のうち物理、地学、地理は中止に、数学、化学、生物学、情報は急きょリモート開催となりました。その開催状況と日本代表生徒の成績について報告する記者説明会を、8月25日にオンラインで実施しました。

7月に予定されていた第31回国際生物学オリンピック2020長崎大会(IBO2020)も、「IBO Challenge 2020」と名称を変え、8月11～12日に大会史上初めてリモートで開催されました。IBO2020組織委員会の浅島誠委員長は「世界の同世代が競い合う機会を無くしてはならないという関係者の強い思いが、ウェブ環境の違いや、試験の公平性をいかに保つかといった課題を乗り越え、リモート開催を実現しました。新しい教育スタイルの提案につながったと思います」と振り返りました。53の国と地域から202人の生徒が参加した中、日本代表生徒は金メダル1、銀メダル3と、4人全員が好成績を残しました。

金メダリストとなった栄光学園高等学校3年の末松万宙さんは「貴重な体験でした。実際に器具を使う実験試験がないのは残念でしたが、国際交流の代わりとしてこれから参加する国際グループプロジェクトが楽しみです」と語りました。

競い合うことと同様に、科学オリンピックで重要なのが国際交流です。リモートという条件下で新たに企画された「国際グループプロジェクト」では、国籍の異なる4人の生徒がグループを

組み、大会OB、OGの学生によるファシリテーションの下、感染症、生物多様性と海洋、ゲノム編集、進化の4テーマから1つを選び約2カ月間リモートで議論した後、ポスター発表をします。

日本代表生徒の特別訓練も今年リモートで行われました。第52回国際化学オリンピックでは代表生徒4人全員が銀メダルを獲得。長年代表生徒を指導する化学グランプリ・オリンピック委員会委員の東京農工大学米澤宣行

教授は、「リモート訓練でどこまで力を伸ばせるのか不安でしたが、期待以上に生徒たちの自主的な努力が実を結びました」と喜びを語りました。

最後に登壇した文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課の奥野真課長からは、「新型コロナウイルスの影響が続いていますが、来年度以降も代表生徒の皆さんが活躍できるよう支援を継続していく予定です」との発言があり、記者説明会は終了しました。



記者説明会のダイジェストレポートほか
科学オリンピックの最新情報はこちら

科学オリンピック



<https://www.jst.go.jp/cpse/contest/>

新たなステージに入った教育への
思いを語った浅島委員長



IBO2020日本代表の4人(左端が末松さん)